

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成21年12月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0270301609
法人名	有限会社 ほおずき
事業所名	グループホーム ほおずき
所在地	青森県八戸市是川1丁目11-1 (電話)0178-96-4311
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年9月1日

【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	13 人	常勤 9人, 非常勤 4人, 常勤換算	10.1人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨一部木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代	実費 他
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

## (4)利用者の概要( 月 日現在 )

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	きむらクリニック 山本歯科 内科種市病院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「真心」①人間としての気持ちを尊重した介護。②自分を大切な身内を介護するという心。③人間関係(協調性)を大切にした職場。という独自の理念を掲げ、職員の個人面談のときに各自の目標を確認するなど、一人ひとりが目標を持ち日々のケアを提供できるよう努めている。

隣接する広い公園に出掛けたり、町内会の会合、運動会、草取り、ゴミ拾い等の行事に参加することで、地域と積極的に関わり、繋がりを大切にしている。

管理者は職員育成の重要性を認識しており、年間研修計画を作成するほか、職員個別の研修実績表を作成したり、年2回の個人面談等で、個々が希望や力量に応じた研修が受講できるよう配慮している。

医療体制について、協力医が定期的に往診を行っているほか、准看護師を職員として配置し24時間体制の支援が可能である。

重度化対応マニュアルや同意書があり、個々の状態に合わせた重度化、終末期の対応を行っている。また、利用者や家族、かかりつけ医等との話し合いを行い、意思統一を図っている。

全ての利用者が、その人らしく暮らし続けられるよう個別介護計画を作成しており、全職員がその実現に向け日々取り組んでいる。

## 【特に改善が求められる点】

保健所や栄養士等の専門家から、食事面についての助言や指導が得られる体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営規定に明記し、評価によるサービスの質の向上を目指しており、職員全員が評価に携わることで、積極的に改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ケア会議を通じて評価のねらい等について理解を深めており、全職員が自己評価に関わって作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎に運営推進会議を開催しており、家族への参加の呼び掛けも行っている。</p> <p>会議には職員も参加し、日々の取り組みや研修計画のほか、自己評価や外部評価結果等を報告し、委員からは意見や改善点等を引き出し、具体的で実践的なものになるよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>広報誌を毎月発行し、家族に利用者の暮らしぶりや連絡事項を報告しており、健康状況等については、その都度連絡している。金銭管理については、面会時に領収書を添えて報告するなどの取り組みを行っている。</p> <p>気軽に家族から意見を出して貰うようコミュニケーションを図り、苦情受付窓口を明示し、苦情箱を設置している。家族からの要望等が出された際は、今後のケアに繋げるよう検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、隣接する公園の草取りやゴミ拾い、運動会のほか、保育園や幼稚園との相互交流等を積極的に行っている。また、夏祭りの案内に出掛けたり、集会所の図書室の利用も行っている。</p> <p>職員がキャラバンメイトの登録をしており、地区の民生委員会議にも参加するなど、積極的に認知症に関する予防・普及活動に取り組んでいる。ホームに外部の方が訪れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念をホーム内に掲示しており、職員はケア会議や申し送り時に、日々のケアサービスを振り返り、理念の共通理解を図っているほか、職員の個人面談の際に、各自の目標を確認するなど、全職員が理念に基づいて日々取り組んでいる。</p> <p>管理者は職員育成の重要性を認識しており、年間研修計画を作成するほか、職員個別の研修実績表を作成したり、年2回の個人面談等で、個々が希望や力量に応じた研修が受講できるよう配慮している。受講後は報告書を作成するほか、月例ケア会議等で報告会を行い、全職員に周知を図っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者の意思を尊重するという理念の実現を目指しながら、利用者本位の支援を心掛けている。また、利用者が安心してサービスを受けられるよう、利用者・家族それぞれの思いを反映させた支援を目標とし、十分に話し合い、関わりを深めるよう努めている。</p> <p>職員は利用者の理解に努め、尊重しながら、自分の大切な身内と関わること信条としており、利用者の生活歴や特技等を把握し、一人ひとりが暮らしの中に生き甲斐を見出せるよう取り組んでいる。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画の実施期間を明示しており、基本的に3ヶ月毎の見直しとしているが、日々の経過観察を行い、随時利用者の状況変化に応じて見直しを行っている。また、利用者や家族等の意向を計画の核とし、見直し等を行う際の欠かせない要素として再アセスメントを行っている。</p> <p>買い物や散歩など、利用者や家族の希望により介護支援を行っており、要望に応じて柔軟に対応している。また、准看護師の配置により、医療面での支援も可能である。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>隣接する公園の遊歩道が、日常的な散歩コースとなっている。また、地域の運動会や保育園との交流、季節毎のドライブや外食など、利用者の意向に沿った外出の機会を設けている。外出時は、利用者の体調や移動距離等に配慮した支援を行っている。</p> <p>利用者の生活歴や希望、力量を把握しており、清掃や食事の準備等の役割のほか、ピアノや編み物など、個々の生き甲斐作りに繋がるよう働きかけている。</p> <p>居室には利用者の愛用品を持ち込むほか、居心地よく過ごせるよう、担当者と利用者が一緒に工夫し、一人ひとりに合った居室作りを行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解した上で「真心」を中心とした①人間としての気持ちを尊重した介護。②自分の大切な身内を介護するという心。③人間関係(協力的)を大切にした職場。という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はケア会議や申し送り時に、日々のケアのサービスを振り返り、理念の共通理解を図っているほか、職員の個人面談の際に、各自の目標を確認するなど、全職員が理念に基づき日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、隣接する公園の草取りやゴミ拾い、運動会のほか、保育園や幼稚園との相互交流等を積極的に行っている。また、ホームの夏祭りの案内に出掛けたり、集会所の図書室の利用を行っている。職員がキャラバンメイトの登録をしており、地区の民生委員会議にも参加するなど、積極的に認知症に関する予防・普及活動に取り組んでいる。ホームに外部の方が訪れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケア会議を通じて評価のねらい等について理解を深めている。また、全職員で自己評価を手掛けており、今後の日々のケアの確認・検討する機会を持ち、改善計画を作成するなど、サービスの質の向上に役立っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催しており、家族への参加の呼び掛けを行っている。会議には職員も参加し、日々の取り組みや研修計画のほか、自己評価や外部評価結果等を報告し、委員からは意見や改善点等を引き出し、具体的で実践的なものになるよう取り組んでいる。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には、パンフレットや「ほおずきだより」を配布するほか、ホームを理解して貰うために、自己評価や外部評価の結果を報告している。また、利用者個々の事情に即した問題等はその都度相談し、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、全職員が理解を深めるよう、報告会を行っている。また、状況に応じて、利用者や家族等に対し、情報提供等の支援を行う用意が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通して高齢者虐待防止法に関する理解を深めており、虐待のないケアを実践している。また、管理者やユニット毎のリーダーが職員の対応に注意を払うなど、虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合は管理者、リーダーに報告する等の対応方法も検討され、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や重要事項説明書を基に、理念やケア方針、ホームの取り組み等について、利用者や家族に詳細に説明し、不安や疑問には丁寧に対応している。また、契約改定時にも、十分に説明を行い、同意を得ている。退去時には、個々の事情に合わせた話し合いを持ち、退去先の情報提供を行うなどの支援をしている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「ほおずきだより」を通じ、家族に利用者の日々の様子や連絡事項等を報告しており、健康状況や体調変化時は、その都度連絡している。金銭管理状況について、面会時に領収書を添えて報告するなどの取り組みを行っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に家族から意見を出して貰うようにコミュニケーションを図り、重要事項説明書にも苦情受付窓口を明示するほか、玄関に苦情箱を設置するなどの取り組みを行っている。家族からの要望等が出された際は、今後のケアに繋げるよう検討し、サービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動による利用者への影響を理解しており、出来るだけ異動を行わないよう配慮している。職員の異動や職員採用時は、利用者が混乱しないよう十分に説明し、遺漏の無いスムーズな引継ぎを心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員育成の重要性を認識しており、年間研修計画を作成するほか、職員個別の研修実績表を作成したり、年2回の個人面談等で、個々が希望や力量に応じた研修が受講できるよう配慮している。受講後は報告書を作成するほか、月例ケア会議等で報告会を行い、全職員に周知を図っている。職員の業務に関する相談は、同業者や各ユニット毎のリーダーが担っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加盟し、管理者は積極的に研修や懇親会等に参加して、他の同業者同士の情報交換を行っている。また、研修会等の交流後は研修報告を通じて全職員が共有しており、ケアサービスの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の意思を尊重するという理念の実現を目指しながら、利用者本位の支援を心掛けている。また、利用者が安心してサービスを受けられるよう、利用者・家族それぞれの思いを反映させた支援を目標とし、十分に話し合い、関わりを深めるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の理解に努め尊重しながら、利用者の生活歴や特技等を把握し、一人ひとりが暮らしの中に生き甲斐を見出せるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりを理解し、その思いを全職員が共有することで、意向等の把握に努めている。また、家族や関係者等から情報収集を行い、利用者本位な支援に活かされるよう取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書作成時は、利用者及び家族の意見や希望を尊重するよう努めている。また、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、利用者毎の担当者を中心にカンファレンスを行い、全職員の意見を取り入れて作成しており、利用者個々に合った具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、基本的に3ヶ月毎の見直しとしているが、日々の経過観察を行い、随時利用者の状況変化に応じて見直しを行っている。また、利用者や家族等の意向を計画の核とし、見直し等を行う際の欠かせない要素として再アセスメントを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や散歩など、利用者や家族の希望により介護支援を行っており、要望に応じて柔軟に対応している。また、准看護師の配置により、医療面での支援も可能である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に一人ひとりの受療状況を把握しており、家族や利用者が希望する医療機関を受診出来るよう支援している。また、協力医による2週間毎の往診のほか、准看護士の職員を配置するなど、24時間体制で対応できる仕組みを整えている。家族による受診を基本としており、受診結果等については共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応マニュアルや同意書があり、個々の状態に合わせた対応を行っている。また、利用者や家族、かかりつけ医等との話し合いを行い、意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重し、プライバシーを大切にケアを提供するよう心掛けている。また、個人情報保護法について理解を深めており、個人記録は事務室に保管するなどの対応をしている。更に、ケア会議や申し送り時に、日々のケアの確認や改善に関する話し合いを行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを理解し、体調の変化を敏感に察知しながら、利用者の訴えを優先した柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には個々の希望や好みを取り入れているほか、利用者の力量に応じて、調理の下ごしらえや後片付けなどを職員と一緒にやっている。また、食事は職員も一緒にとり、会話を楽しみながら食べこぼし等のサポートを行うなど、和やかな雰囲気でも過ごしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居時のアセスメントや日々の関わりから、利用者の入浴習慣や好みを把握している。入浴日や入浴時間は固定しているが、利用者個々の意向や希望を取り入れ、利用者の体力等に合わせた入浴の支援と見守りを行っている。入浴を拒否する場合は、職員を変えて誘導を試みたり、日を替えて誘うなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量を把握しており、清掃や食事の準備等の役割のほか、ピアノや編み物など、個々の生き甲斐作りに繋がるよう働きかけている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する公園の遊歩道が、日常的な散歩コースとなっている。また、地域の運動会や保育園との交流、季節毎のドライブ、外食など、利用者の意向に沿った外出の機会を設けている。外出時は、利用者の体調や移動距離等に配慮した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修を通じ、身体拘束の内容やその弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアを提供している。やむを得ず、身体拘束を行う場合は、家族に説明し同意を得ているほか、記録簿を残す体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠していない。2階の階段前は危険防止を目的に施錠する場合があります。家族に説明し同意を得ている。また、利用者の外出傾向を察知できるよう、玄関にセンサーを取り付けるなどの工夫を行っているほか、察知した時は、付き添う等の支援を行っている。無断外出時に備え、近隣から協力が得られるよう働きかけ		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定し定期的な避難訓練を年4回実施している。また、火災時の消防直通装置を配備しているほか、運営推進会議等により、災害時に地域から協力が得られるよう働きかけている。災害発生時に備え、食料や飲料水、衛生用品等を用意するなどの取り組みを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師免許を持つ管理者が中心となり、栄養バランスに配慮した献立を作成しているほか、1日の総摂取カロリーや水分摂取量を把握し、記録しているが、栄養士等の専門家からアドバイスを受ける体制を整えるまでには至っていない。	○	保健所や専門家等から、食事面についての助言や指導が得られる体制を整えることに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルが作成されており、必要に応じて見直しを行っている。年1回、保健所から講師を招き、食中毒や感染症に関する研修会を行っている。また、「ほおずき便り」を通じ、感染症に関する情報提供をしたり、来訪時には手洗いの励行など予防に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、畳敷きの部屋や、ひと休みできる椅子が置かれ、清掃も行き届いている。また、職員の声や物音、テレビの音量も適切であるほか、昼食時にはリラックス効果のある明るい音楽が流れ、落ち着いて過ごせる空間となっている。ホールからは隣接の公園の緑が見渡せるなど、季節を感じることができる。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の愛用品を持ち込みよう、家族等に働きかけを行っている。また、居心地よく過ごせる居室となるよう、担当者と利用者が一緒に工夫し、一人ひとりに合った居室作りを行っている。		

※  は、重点項目。